

津波

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目途に津波警報（大津波、津波）または津波注意報を発表します。

津波警報・注意報の種類

※大津波警報は特別警報に位置づけられています。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m < 予想高さ)	巨大	陸域に津波が及び浸水するおそれがあるため、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
		10m (5m < 予想高さ ≤ 10m)		
		5m (3m < 予想高さ ≤ 5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m < 予想高さ ≤ 3m)	高い	陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m ≤ 予想高さ ≤ 1m)	(表記しない)	陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。

高い場所へ速やかに避難する

より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難しましょう。



なるべく徒歩で避難する

車では渋滞や危険を招く可能性があるため、なるべく徒歩で避難しましょう。

正しい情報を入手する

防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手しましょう。

河川や海岸には近づかない

地震の発生や、警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険ですので、釣りや海水浴を行っている方は、速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難しましょう。

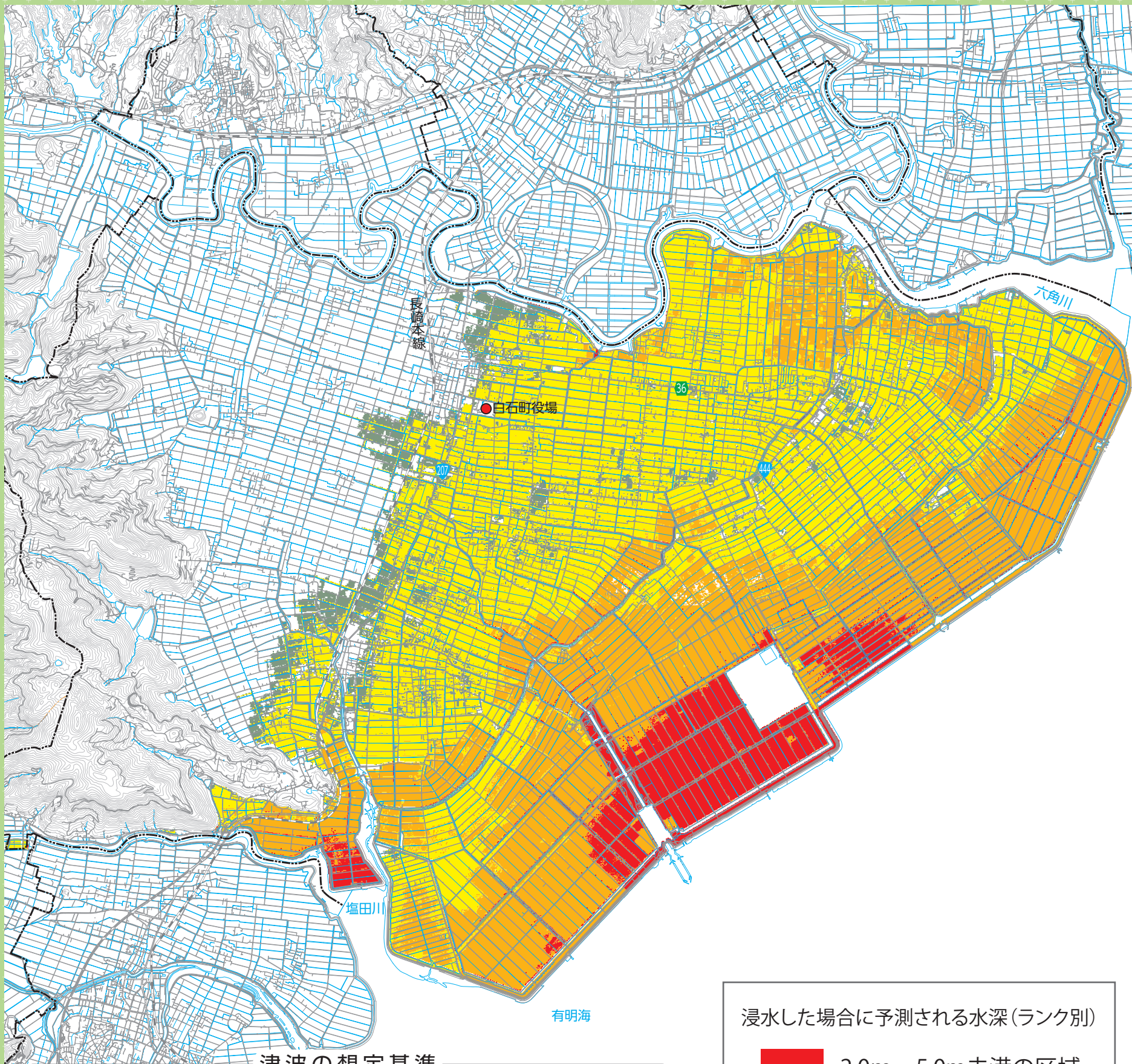


避難指示に従う

避難指示が発令されたらただちに指示に従い、安全で高い場所に速やかに避難しましょう。



津波ハザードマップ



津波の想定基準

この津波浸水想定区域図は「最大クラスの津波(L2津波)」を想定し、佐賀県が平成27年6月に公表したものです。津波の発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波となっています。

浸水予測は、数値シミュレーションにより作成されていますが、実際の地震発生時には、この津波浸水想定区域図とは異なる範囲で津波の浸水が生じる可能性があります。

津波浸水想定区域図策定基準

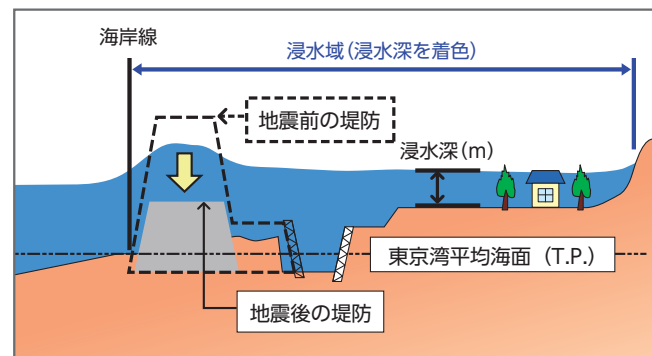
- 想定地震 「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表(H24年8月29日)の想定地震津波(Mw=9.1)、雲仙地溝南縁断層帯と西部断層帯の連動地震(Mw=7.1)
- 想定潮位 有明海=TP※2.72m ※TP=東京湾平均海面上
- 堤防条件 耐震や液状化に対する技術的評価が無い場合は堤防高を地震前の25%の高さとし、技術的評価が有る場合は評価で得られた沈下量を用いる。

浸水した場合に予測される水深(ランク別)

- 2.0m～5.0m未満の区域
- 1.0m～2.0m未満の区域
- 0.3m～1.0m未満の区域
- 0.01m～0.3m未満の区域

白石町の浸水想定結果

最大浸水面積	最大浸水深	想定最大津波高			
		影響開始時間(分)	最大津波波高	最高津波水位	最高津波到達時間
5,980ha	2.5m	289分	0.48m	TP3.2m	289分



高潮

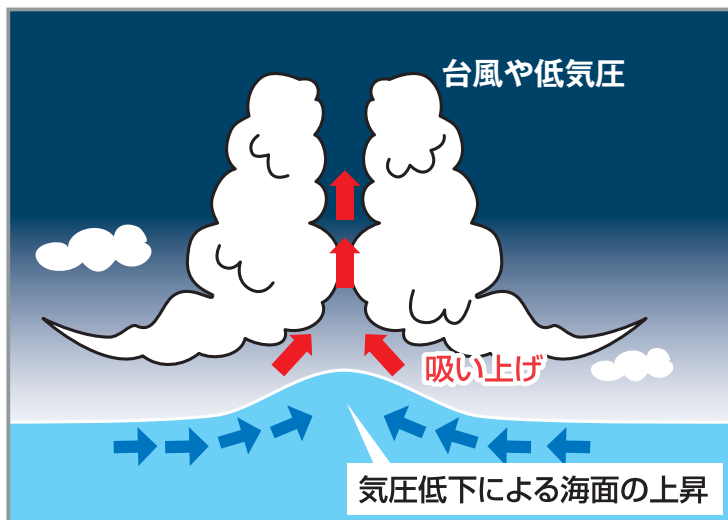
高潮は増水の速度が速く、満潮時刻はもちろん、満潮時刻の前後数時間は、潮位が短時間のうちに異常に上昇することがあります。台風が接近・上陸している時は十分に注意しましょう。

高潮が発生する仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。

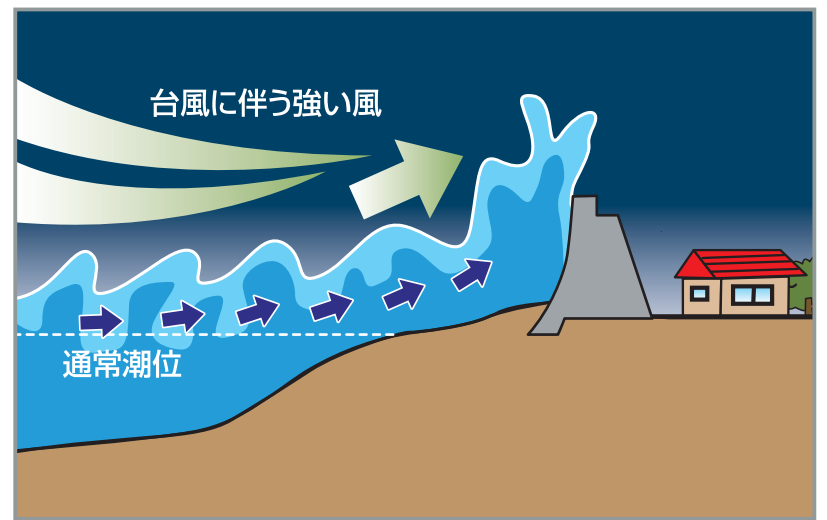
また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により河川の流が阻害されます。そのため、川沿いでは氾濫が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。

吸い上げ効果



台風や発達した低気圧の中心が接近すると、中心付近の気圧が低下し、海面が吸い上げられて上昇します。気圧が1hPa低下すると海面は1cm上昇します。例えば、950hPaの台風が接近すると、1000hPaだった時より50cm海面が上昇します。

吹き寄せ効果



台風による強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。吹き寄せ効果は風速や海岸の状況により大きく異なり、V字型の湾の奥ほど高くなります。

高潮をもたらす台風の大きさと強さ

台風の「大きさ」は、強風域（風速15m/s以上の強い風が吹いているか、地形の影響などがない場合に吹く可能性のある範囲）の半径で表し、台風の「強さ」は、最大風速で区分しています。

台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型（大きい）	500km以上800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

高潮注意報・警報の基準となる潮位

◆高潮注意報：潮位4.1m ◆高潮警報：潮位5.1m

◆高潮特別警報：数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮となると予想される場合

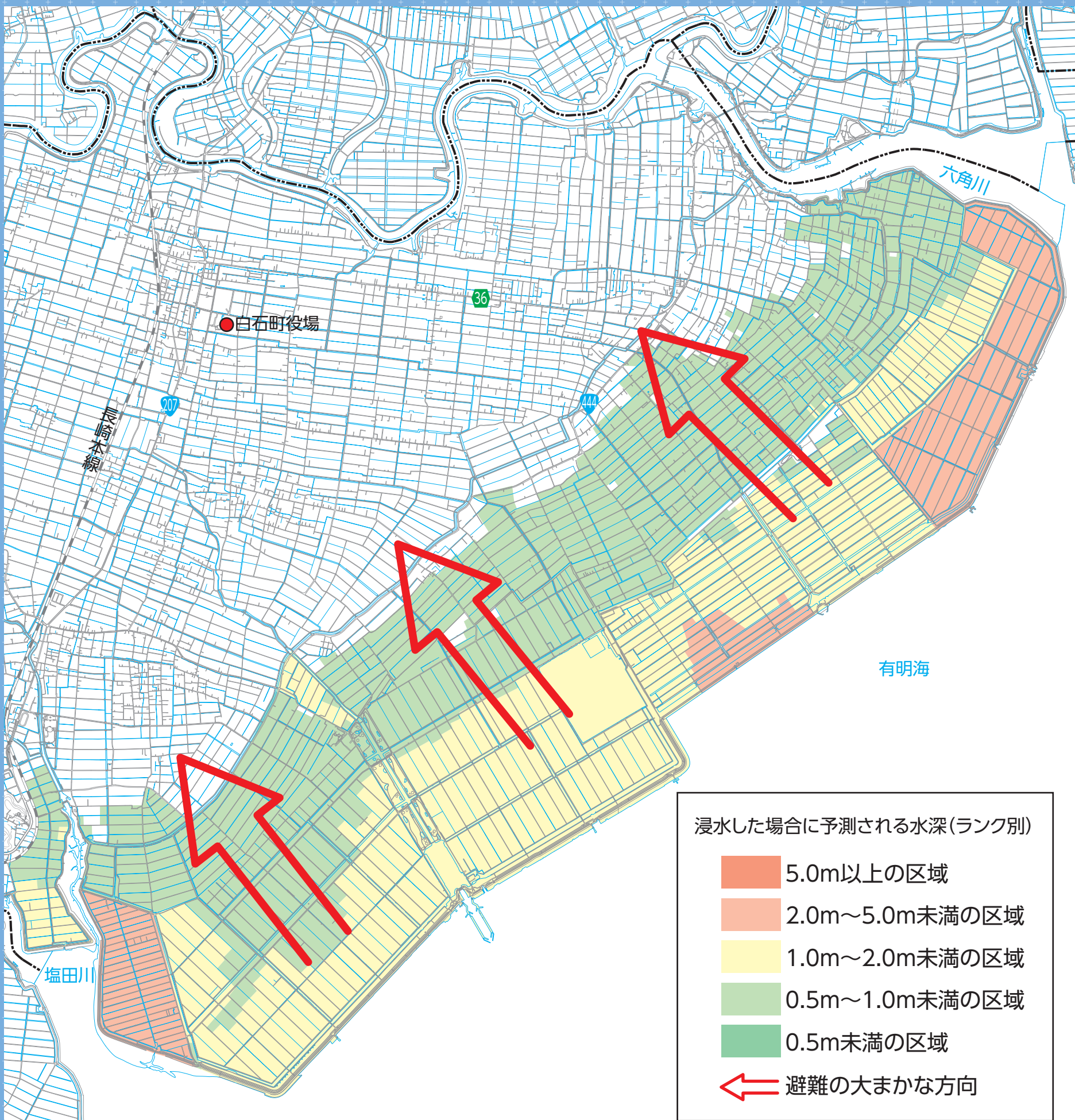
高潮に関する
情報入手

- 気象庁 気象警報・注意報
- 佐賀地方気象台

<https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

<http://www.jma-net.go.jp/saga/>

高潮ハザードマップ



この図は、伊勢湾台風と同等の台風が最も影響のある進路を通った場合を想定して、台風の降雨による内水氾濫や高潮により堤防から水があふれた場合に想定される浸水範囲及び浸水深を示した図です。

この図の避難の方向は、各ブロックの代表的な地点から、高潮氾濫による浸水区域外に最短のコースで避難するための大まかな方向を示したものです。避難行動等を確認する時の目安にして、風雨により危険となる前に避難を完了するよう心掛けてください。避難行動が遅れてしまった場合には、この図を活用して安全を確保して避難してください。また、避難行動が危険だと判断した場合には、無理をせずに建物の上階など高い所へ避難してください。

市町から避難勧告・避難指示等が出された場合には、速やかに避難してください。なお、この浸水想定区域図は1つのケースであり、台風の進路などによっては、浸水範囲や浸水深が変わる可能性があります。